

日本新記録のウラシマグモ属1種と雄の初めての記載

池田博明*

New Records of *Phrurolithus coreanus* PAIK, 1991 (Araneae: Clubionidae), from Japan, with the First Description of the Male

Hiro Yoshi IKEDA*

筆者は以前、日本未記録のウラシマグモ属の一種をキレオビウラシマグモと仮称して、その形態、生態を口頭発表した(池田・稲葉, 1988)。八木沼健夫博士はこのクモを新種と判断し、記載を筆者に一任された。しかし、1991年1月に韓国で記載された *Phrurolithus coreanus* PAIK, 1991 が筆者がキレオビウラシマグモと仮称したクモと同種であることが分かったので、ここに日本新記録として報告する。なお、原記載は雌だけによるものだったが、今回雌雄とも採集されたので雄を初めて記載する。和名は腹部背面後部の白帯が中央で切れていることから、キレオビウラシマグモとした。

報告に当っては、採集記録、標本、文献などの多くを八木沼健夫博士にご指導いただいた。報告を任せて下さった八木沼博士に深謝する。また、標本を快く貸して下さい下さった加村隆英博士、谷川明男氏、筆者の採集行および生態調査に同行、飼育によって貴重な情報を提供して下さい下さった稲葉茂代氏に感謝する。

Phrurolithus coreanus PAIK, 1991

キレオビウラシマグモ

Phrurolithus sp.: 池田, 1986, Kishidaia, (54), p. 27. — 池田・佐藤・稲葉, 1987, 神奈川県自然誌資料, (8), p. 103. — 池田・足柄高校生物部, 1988, 小田原市郷土文化館研究報告, (24), p. 39. — 谷川・田副, 1988, Atypus, (92), p. 24. — 池田, 1989, Kishidaia, (59), p. 50. — 千国, 1989, 写真日本クモ類大図鑑, p. 127, fig. 25. — 新海, 1991, Kishidaia, (61), p. 39.

Phrurolithus coreanus PAIK, 1991, Korean Arachnol., 6, p. 174, figs. 1-9.

所検標本: 1♂, 15-VI-1986, 宮城県伊豆沼, 谷川明男採. 1♂, 31-V-1986, 神奈川県横浜市戸塚区舞岡町, 谷川明男採. 1♂, 27-V-1991, 神奈川県中郡大磯町鷹取山, 池田博明採. 1♂, 4-V-1985, 6♀♀, 7-VI-1985, 神奈川県小田原市大稲荷神社, 稲葉茂代採. 1♀, 14-VI-1985, 1♀, 15-VI-1985, 1♀, 21-VI-1985, 3♀♀ 1♂, 13-VI-1988, 1♀, 20-VI-1988, 神奈川県小田原市

* 〒258 神奈川県足柄上郡大井町金手1099
Kanade 1099, Ôi-machi, Ashigarakami-gun, Kanagawa 258
1991年10月8日受理

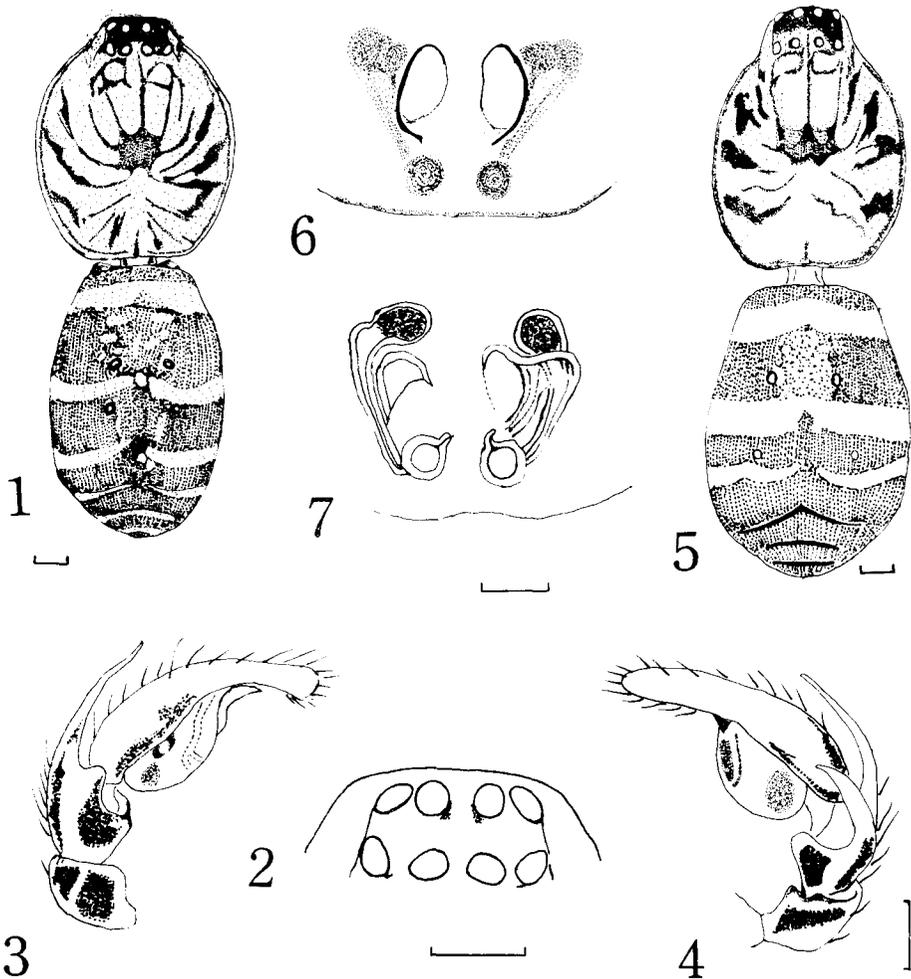


図 1-7. キレオピウラシマグモ, *Phrurolithus coreanus* PAIK, 1991.—1. 雄の頭胸部および腹部背面. 2. 雄の眼域. 3. 雄の左触肢前側面. 4. 同, 後側面. 5. 雌の頭胸部および腹部背面. 6. 外雌器. 7. 雌の生殖器内部背面. (スケール: 0.15 mm.)

小田原城内高校, 稲葉茂代採. 1♀1♂, 12-V-1985, 神奈川県中郡大磯町高麗山, 稲葉茂代採.
3♀♀, 28-VI-1982, 5-VII-1982, 京都府京都市左京区松ヶ崎, 加村隆英採. 1♀2♂♂, 26-V-1985,
京都府北桑田郡美山町芦生ひっくり谷, 加村隆英採. 1♂, 28-VI-1982, 京都市北区上賀茂深泥池
湿原, 加村隆英採. 1♀, 25-V-1985, 京都府北桑田郡美山町芦生須後, 加村隆英採. 1♀, 16-
VI-1985, 奈良市春日原原始林, 座占禎三採. 1♂, 採集時期不明, 三重県, 橋本理市採. 2♀♀
2♂♂1 juv., 4-VI-1955, 香川県小豆島寒霞溪, 岡田康稔採.

記載: 測定(単位 mm. 測定及び描図標本 ♀, 20-VI-1988, 小田原城内高校産, ♂, 13-VI-
1988, 小田原城内高校産). 体長♀ 2.72, ♂ 2.34; 背甲長♀♂ 1.12; 背甲幅♀ 0.88, ♂ 0.90;
腹部長♀ 1.52, ♂ 1.22; 腹部幅♀ 1.04, ♂ 0.82. 歩脚長(表1). 前中眼径♀ 0.06, ♂ 0.07;



図 8. キレオピウラシマグモ, *Phrurolithus coreanus* PAIK, 1991, 雄の右触肢後側面 (SEM 像).

前側眼径♀ 0.08, ♂ 0.09; 後中眼径♀♂ 0.07; 後側眼径 ♀♂ 0.08; ALE>PLE>PME>AME; 前中眼間♀♂ 0.04; 前中側眼間 ♀♂ 0.01; 後中眼間 ♀♂ 0.04; 後中側眼間 ♀♂ 0.02; 中眼域の前辺♀♂ 0.14, 後辺♀♂ 0.18, 長さ♀♂ 0.18; 額の高さ♀0.14, ♂ 0.11.

変異 (単位 mm): 体長♀ 2.37-3.20, ♂ 2.08-2.50; 背甲長♀ 1.06-1.18, ♂ 0.96-1.12; 背甲幅 ♀ 0.80-0.93, ♂ 0.80-0.90; 腹部長 ♀ 0.93-1.55, ♂ 0.88-1.38; 腹部幅 ♀ 0.83-1.34, ♂ 0.70-0.80.

表 1. 歩脚長 (♀/♂).

| 脚 | 腿節 | 膝節 | 脛節 | 跗節 | 跗節 | 計 |
|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| I | 0.88/0.88 | 0.34/0.35 | 0.90/0.85 | 0.76/0.72 | 0.46/0.46 | 3.34/3.26 |
| II | 0.80/0.76 | 0.34/0.36 | 0.72/0.74 | 0.66/0.68 | 0.40/0.42 | 2.92/2.96 |
| III | 0.64/0.68 | 0.32/0.30 | 0.51/0.56 | 0.66/0.64 | 0.42/0.44 | 2.55/2.62 |
| IV | 0.94/0.96 | 0.32/0.40 | 0.92/0.96 | 1.00/1.00 | 0.56/0.56 | 3.74/3.88 |

歩脚の刺: ♀: 腿節 I~IV背面 1-0-0, 脛節 I腹面 2-2-2-2-2-0, II腹面 2-2-2-2-0, 跗節 I腹面 2-2-2-1p-0, II腹面 1p-2-2-2-0. (p は前側面.) ♂: 腿節 I~IV背面 1-0-0, 脛節 I腹面 2-2-2-2-2-0, II腹面 2-2-2-2-2-0, 跗節 I腹面 2-2-2-1p-0, II腹面 1p-2-2-2-0.

色彩及び斑紋: 全体として, 雄は雌とよく似た色彩をしている (図 1, 5). 背甲は暗褐色で黒褐色の放射状斑がある. 歩脚の地色は黄褐色で, 第 I-II歩脚の腿節, 膝節, 脛節基部から半分は暗褐色, 第 III-IV歩脚の腿節もやや暗褐色味をおびる. 腹部は黒褐色または暗褐色で, 前方と中央に白色または黄褐色の帯がある他, 中央の帯のやや後ろに中央で切れた白帯がある. 出糸突起上部に 1 白斑がある. 腹部腹面は黒味の強い個体 (例えば宮城県伊豆沼産) では背面同様, 黒褐色だが,

色の薄い個体になるにつれ、中央部が黄褐色になり、腹部側面まで背面の白帯が伸びるのが目立つようになる。所検標本の限りでは関西以西は色彩が淡く、関東以北は黒い傾向があるが、三重県の標本は黒っぽく、筆者が以前に採った神奈川県足柄下郡箱根町畑宿の標本は淡かった。出糸突起は黄灰色。

外雌器は左右に大きな開口部を持ち(図6)、生殖器内部は図7の通りである。♂の触肢は、脛節突起が二又に分かれているのが特徴である(図3-4,8)。

生態：本種は神奈川県小田原市ではウラシマグモと同所的に生息するが、成体の出現期はウラシマグモより約1週間早く、雄は5月初旬であり、雌は5月中旬である。産卵期は6~7月。飼育下で1♀当りの卵のう数は3~5個、1卵のうからの出のう数は3~4頭、卵のうの長径は6~7.5mm(飼育の結果は稲葉茂代氏の私信による)。越冬態は亜成体である。

分布：既知分布域は現在のところ、韓国と上記の日本各地(宮城県、東京都(新海,1991)、神奈川県、京都府、奈良県、三重県、香川県)であるが、日本全国に分布しているものと考えている。

他種との区別点：本種は一見ウラシマグモ *Phrurolithus nipponicus* KISHIDA, 1914に似るが、小型であること、及び雌雄とも腹部背面の後端に中央で切れた白帯を持つ点で異なる。ただし、白帯の特徴は色彩の淡い個体でははっきりしないことがある。外雌器、雄の触肢では他種と明らかに区別できる。

摘 要

日本新記録のキレオビウラシマグモ *Phrurolithus coreanus* PAIK, 1991の雌雄を記載した。本種は最近韓国で記載されたもので、雄は今回初めて得られた。

引 用 文 献

- 千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑. 309 pp. 偕成社, 東京.
- 平塚クモの会, 1986. 平塚市の真正クモ類, 1. リストおよび分布. 自然と文化, (9): 75-102.
- 池田博明, 1986. 東京蜘蛛談話会観察採集会報告. 高麗山のクモ. *Kishidaia*, (54): 22-27.
- ・佐藤伸一・稲葉茂代, 1987. 小田原市内4箇所の社寺林(蓮昌寺・大蓮寺・真福寺・大稲荷神社)の真正クモ類. 神奈川県自然誌資料, (8): 99-105.
- ・稲葉茂代, 1988. キレオビウラシマグモについて. *Atypus*, (91): 14.
- ・足柄高校生物部, 1988. 足柄高校周辺の真正クモ類. 小田原市郷土文化館研究報告, (24): 31-40.
- , 1989. 東京蜘蛛談話会真鶴合宿報告. *Kishidaia*, (59): 45-52.
- PAIK, K. Y., 1991. Korean spiders of the genus *Phrurolithus* (Araneae: Clubionidae). *Korean Arachnol.*, 6: 171-196.
- 新海 明, 1991. 東京蜘蛛談話会1989年度観察採集会報告. 八王子城跡のクモ. *Kishidaia*, (61): 33-42.
- 谷川明男・田副幸子, 1988. 伊豆沼・内沼(宮城県)の蜘蛛類および日本新記録種(*Ero cambridgei* KULCZYŃSKY, 1911)の記載. *Atypus*, (92): 8-33.